

コアシンポジウム 3

「炎症性消化管疾患の最前線 【本邦の treat to target 確立を目指して】」

司会 松本 主之（岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野）
渡辺 憲治（兵庫医科大学消化器内科学講座）

炎症性消化管疾患の治療は様々な新規薬剤も登場し、大きな進歩を遂げている。一方で、病状は多様で、治療の反応性や切り替え時、合併症、安全性など、個別の対応を要する。その基盤となるのが treat to target 戦略に基づく客観的モニタリングで、バイオマーカーや画像診断、病理診断など幾つかの段階の治療目標がある。従来、本邦は精緻な画像検査を得意としてきたが、他のモニタリング法と組み合わせた新たなアプローチが検討されている。本コアシンポジウムでは、こうした treat to target 戦略に対する種々の観点からの意欲的な検討を発表して頂き、今後の本邦の方向性を協議する場としたい。